



日和山

新潟市立日和山小学校
学校便り 第97号
令和6年1月26日

日和っ子にもできる「災害の後始末」

校長 宇ノ井 修二

1月2日(火)の昼、ようやく24時間ぶりの食卓に着きました。多くの皆さんも、およそ同じような経験をされたことでしょう。直後、地域教育コーディネーターからメールが届きました。ある方からのメールの転送です。

「昨日の夕方日和山小学校に避難させていただき、家族全員無事で不安な気持ちも和らぎました。その際、校内に土足で入らせてもらったので、新学期の前に可能であれば掃除に行きたいのですが、そういった日があるようでしたら教えてください。靴の跡もあって、そのまま新学期を迎えるのは、場所を使わせていただいた側として申し訳なくて。何か協力できるとき教えてください。」

お気持ちだけいただくことにさせてもらうよう、返信してもらいました。

地震発生直後の津波警報発令と同時に、家族と一緒に避難所である沼垂小学校に避難し、土足のまま教室に入りました。教頭と連絡を取り合い、津波警報が出ている以上職員を海に向かわせるわけにはいかなないので、自身の安全確保を最優先にさせ、津波警報解除まで日和山方面には向かわないように、全職員に配信メールで指示を出しました。報道等を見て判断し、私自身は家族に運転してもらって施設管理責任者として出勤しました。警報の出ている海に向かって車を走らせ、山の下埠頭から柳都大橋を渡って海辺の日和山小学校に向かうのです。なかなかの緊張感でした。

避難所としての動き、住民の皆さんへの対応、物資の提供等は、およそ私が協力するまでもなかったようです。不測の事態だったにもかかわらず、率先して動いてくださっている方の多さに驚きました。

「何か運ぶ物などがあれば、手伝います。」とか「隣の柳都中へ取りに行く物があれば、行きますよ。」と声を掛けてくださる方が多くおられました。コミ協の会長さんが様々な対応においてご判断くださっていたことで、私が到着したときには、校内がほぼ落ち着いていたのです。聞くところによると、消防団の皆さんの活躍が目覚ましかったとのこと。地震であるが故にエレベーターを使えないと判断した消防団の皆さんが、ご高齢の皆さんを上の方までお連れしたり、暖房の準備をしたり、新たな避難者を受け入れるために、寒い玄関付近で常に待機してくださっていたりしたのです。さらに、PTA会長が機転を利かせて、様々な対応をしてくださっていたことも分かりました。何よりも避難所運営委員の方が、食料の配付や避難者への夜通しの対応など、献身的に動いてくださったことで、事なきを得たと感じています。2日午前1時15分に津波警報が解除されたときには、すでに就寝しておられた方も複数人いらっしゃいました。

2日(火)朝8時前には避難者全員が帰宅されたので、教頭と最終点検を行い、9時頃には避難所機能を閉鎖しました。喉も渇いたし、腹もすきました。でも誰のせいでもありません。「自助」できていなかった自分の責任です。後に、学校運営協議会の委員から液化化した地域での土砂の袋詰めや、陥没場所でのパイロンの設置などの画像が届きました。地域の方の生活のため、そして、子どもたちの安全確保のために動いてくださっていたことが分かりました。

率先して声を掛けてくださった方、コミ協の役員さん、消防団の皆さん、PTAの役員さん、避難所運営委員さん、地域の自主防災委員さん。とてもたくさんの方々が、地震後の「災害の後始末」にご尽力くださいました。多くの皆さんがご活躍くださったことで、日常を取り戻してきています。この場をお借りしてお礼申し上げます。

登校初日、1月9日の全校朝会での話は予定を変更し、「災害の後始末」と題して、今回ご尽力くださった方々の活躍ぶりを紹介させていただきました。そして、冒頭のメール文を紹介した上で、以下のように締め括りました。

「しも町」の皆さんがやってくくださった「災害の後始末」と同じように、私たちにできる「災害の後始末」をします。今日は全校で朝清掃を行います。校舎内を水拭きしてピカピカにしましょう。

その後、日和っ子が、いつも以上に頑張っって清掃に取り組んだことを、ここに報告いたします。

入舟コミュニティ協議会会長 田村幸夫様が、1月15日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

自ら問いをもち、解決に向かう子どもの育成をめざして

推進プロジェクトB
近藤 真弓

日和山小学校では、「分かる・できる授業」を目指した授業改革に取り組んでいます。

昨年度までの「学ぶ楽しさを実感する子どもの育成」に重点を置いた授業改革で、意欲的に学習に取り組んだり、友達とのかかわり合いの中で自分の考えを広げたり、深めたりする姿が見られ、成果を上げることができました。

今年度は、子どもが何らかの事象に出会ったとき、今までの経験や自分の知識から抱いた疑問を、自分の課題や問題と捉え、自らの方法で解決しようと動き出す主体的な学びに取り組む子どもを目指し、「自ら問いをもち、解決に向かう子どもの育成」をテーマに掲げ、授業改革に取り組みました。子どもが、「どうしてなのだろう。」「調べてみたい。」「追求したい。」と問題意識を高めることができるように、授業の導入場面では、既習内容や友達の考えとの「ずれ」を引き出し、学習課題が明確になるような課題づくりを大切にしました。そして、質の高い学習課題の工夫と自力解決を促す手立てを工夫した授業改革を目指し、各学級1回の授業公開を行い、授業改革研修を行いました。

家庭学習の充実にも取り組みました。新潟市では、小学生に毎日「学年×10分間」以上の家庭学習を推奨しています。自主学習（自学）の取組では、全校で統一して適切な内容を選び計画を立てて学ぶ力や、授業と関連させながら工夫して学ぶ力の育成にも力を入れています。家庭学習の習慣を身に付けることは、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着につながり、「分かる・できる」をより確かなものにできます。今後も、集中して家庭学習に取り組める環境づくりへのご協力をよろしくお願いいたします。



日和山のあいさつは、いつでもどこでも誰とでも！目指せ あいさつ5万人運動

推進プロジェクトA
斎藤 隆

9月19～22日の4日間学校・家庭・地域が一体となってあいさつ運動をすることにより、子どもたちの気持ちのよいあいさつの習慣化を目指しました。保護者の皆様も学校に来たり、家の前に出たりしてあいさつしてくださいました。地域の皆様も家やお店の前を出てあいさつをしてくださいました。中学生の有志もたくさん来て元気にあいさつしてくださいました。おかげで子どもたちは、8万人を越える人にあいさつをすることができました。あいさつをみんなで頑張ったことにより、大きな成果となりました。日和山の地域がより元気に明るくなったのです。



縦割り班活動で力を入れているのは、ピア・サポートです。「頑張る」「協力する」「あったか言葉をつかう」ことで、安心・つながり・絆を生み出し、思いやりのある学校を目指しています。